

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4097900015		
法人名	医療法人 松本医院		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 朝日苑		
所在地	福岡県三潁郡大木町大藪186-1 (電話) 0944-75-8520		
自己評価作成日	平成23年7月21日	評価結果確定日	平成23年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1. 人権教育、啓発活動の観点から会議の重要性を上げ、毎月の各棟ミーティング、役職会議、全体会議を欠かさず行い、①人の話を心で聞く。②一方的な決めつけをしない。③互いに学び合う。これらをトレーニングしながら情報を共有していく。
2. 倫理規定としては朝日苑の品格を大切にすること。その中で①約束を守る。②危険な行動を慎む。③謙虚である。これらを胸としている。
3. 六つの業務（管理、計画作成、介護、看護、調理、防火防災）と四つの活動（地域交流、年間行事、委員会、研修計画）を柱として全職員がそれぞれ活躍の場を持ち、活達である事。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成23年8月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

一面緑の田園風景の一角にオレンジ色の屋根をした事業所がひときわ目に付く、広く、明るく季節感あふれる小物遣いや生け花等、細やかな心遣いが行き届いている。事務長、管理者、職員の気配りが細やかで、接し方にも配慮があり、人柄が穏やかで笑顔が明るい。入居者との関係も和やかで家庭的で自由な生活の支援がされている。入居者の尊厳と安全確保を最優先し理念に掲げ、全職員が一丸となりケアの向上に取り組んでいる。その結果が現在のホームの姿として随所に現れている。地域に密着した地域とともにある事業所で今後益々の発展が期待される。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、安全、尊厳の実行ができる為に職員全体の心に浸透する言葉で独自の実践キーワードを掲げ、毎朝、夜勤申し送り時に唱和を行い、常日頃においてキーワードに基づいたサービスができるように心掛けている。	法人代表者・職員は地域密着型サービス事業所の社会的役割を認識しており、職員全員で理念を共有し、具体的なケアについて意思統一を図り実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	年2回の小学校との夜回りに参加させて頂き、苑の行事の夏祭りはパンフレットを町便りに入れて頂いている。地元の自治会の年行事の草取りに参加し、地域の方々との交流を深めている。	地域住民の一員として自治会に加入し、保育園、学校、地域の行事に参加している。近隣の方が畑で採れたイチゴの差し入れや地域の方が回覧板で立ち寄って話しに来られる等、地域との付き合いを大切にしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献としては、日々の介護実践の在り方をご家族や地域の方々へ絶やすことなく発信し続ける為、ホームページの開設や新聞を発行している。ボランティアの受け入れや小、中学校との交流、又、今年は初めて大学からグループホームでの実習の要望があり、対応させて頂いている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表者からは、入居者様の状態やサービスの実際を身近に肌で感じて頂き、その良い点、悪い点を率直に述べて頂いている。ホームページの作成には、社会福祉士と一年以上に渡って話し合いを行い、情報発信の内容を精査し、開設に至っている。区長や民生委員には、地域交流を円滑にする為、又、制度改正や地域の情報等に関しては町福祉課より協力を頂いている。	定期的に運営会議を開催し、現在取り組んでいる内容や今後の活動計画について報告し、委員から意見、要望をもらっている。事業所主催の夏祭り、避難訓練への地域住民の参加協力を呼びかけたり、委員から助言をいただき地域の除草、夜回り活動に参加する等して運営やサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事があれば市町村の担当者と連絡をとったり訪問したりしている。又、ケアマネジャー連絡会に出席し、情報収集を行い、サービスの質の向上に活かしている。	市町村担当職員と日頃から連絡を取り、話し合いや相談を行って情報を共有し、連携を図りながらケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体能力、認知度、更には心理的な問題行動等、その方の状況は様々である。お一人おひとりの一日の暮らしを家庭で過ごしておられた時のように身体拘束をせず安全にお守りする為には、まずその人から目を離すことのない担当者を決めること、そこから現場に立つその他の職員が連携を取りながら見守っていくことを実践している。定期的なミーティングでリスクマネジメント委員会の検討や分析を参考に反省点を見出し実践に生かしている。	定期的にミーティングで身体拘束に関する勉強会を実施し、徹底した理解を図っている。外出傾向のある利用者が出掛けられたら一緒について行き、安全を確保しつつ本人の思いを受け止めている。職員は見守りや連携プレーで利用者の自由な暮らしを支援するように取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的な入居者様への個別対応によって現状を把握し、毎朝夕の申し送りや毎月のミーティングで虐待に繋がるような言動については職員同士で注意し、未然に防ぐ為に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政主催の研修に参加し、今後必要とする方に支援できるようにパンフレットも常備している。	職員は制度について内部・外部研修に参加しており理解している。家族へ発送している朝日苑便りや担当職員の手紙と一緒に成年後見制度のパンフレットを同封して情報の提供を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を提示し、解りやすい言葉で一つひとつ丁寧に説明する事により理解を求め、納得された上で同意が得られるように気掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からは常日頃から意見や要望がないか尋ねるように努めている。又、意見や要望に関しては会議にて検討し、出来る限り運営に反映させる事ができるよう努めている。	利用者との関わりの中で思いをくみ取り、家族の心情を察して意見や要望を引き出すように努めている。遠方の家族の面会時間について意見が出され、夜勤者が対応し面会に来ていただくようにする等、出された意見・要望は話し合って運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による各棟ミーティングがあり、そこで出された意見や問題点を役職者会議によって討議し、議題や決定事項をまとめ、更にはホーム長参加のもと全体会議にてその内容をもとに話し合いを行っている。又、行事報告、各委員会からの報告、苑内勉強会等、一時間を有効に使うて隔々の声を拾い上げ全職員による情報の共有に努めている。この一連の流れを毎月欠かさず行うことによりマンネリ化しないリズミカルな職場環境が生まれ、モチベーションの向上に繋げている。	項目毎に取り組んで意見を出し合い、全職員で自己評価作成に取り組んでいる。管理者は、日頃から職員の意見を聞くように心がけている。食事会や懇親会等機会を設け職員間のコミュニケーションを図るようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会計士、労務士のアドバイスを受けながら就業規則に則った健全な運営に努めている。例えば、勤務表の中に各自希望の研修や有休を届け出た職員を考慮した人員配置を行ったり、処遇改善交付金の活用し、水準を下回らない給与、ボーナスの支給を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用にあたっては、経験を最重要視している。新人社員に対しては、人は目を閉じて車道を歩くとどうなるかというブラインドテストをもとに運営者、管理者、現職員が連携をとって丁寧な指導をしていくよう努めている。職場を管理・ケアマネージャー・介護・看護・調理・防火防災という六つの業務に分け、それぞれの主任が統括する。その中に年間行事、地域交流、委員会活動、研修計画の担当者が関わることにより、それぞれの活動の場で全職員が生き生きと行動できる活性化した職場となっている。	全職員がやりがいや向上心を持って安心して働けるように職場環境、条件の整備に努めている。研修の制度システムを整え資格取得に向けた支援をしている。職員の能力が十分に発揮できる配慮をしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は運営理念「ハーモニー」を作成し、その中で人権教育、啓発活動における介護の重要性や法令遵守等を述べ、勉強会や提示等により職員への周知徹底に努めている。	法人代表者及び全職員は人権教育に関する内部・外部研修に参加している。基本的人権が尊重される環境を構築している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内では例年の勉強会に加え、介護労働安定センターより演者を招き、6月・8月・9月の三回講演会を行う予定である。又、一方、苑外研修を円滑に行うための研修計画を作成し、年間を通して希望と勤務に応じた研修を全職員が受けることのできるシステムを確立している。受講者は一週間以内にレポートを書き、発表することになっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者、特に小規模多機能ホームを新設される事業者様よりの見学の依頼を受け、対応させて頂いた。当事業所からは今年二ヶ所の施設見学を行った。事前に施設の見学と質疑応答による交流会の依頼を行い、快く応じて頂いている。介護の難しさや楽しさ、知恵使いの話等、サービス向上の取り組みに活かしていきたいと思う。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ず本人様を訪ね、心身の状態や不安、要望等を伺い、情報収集を行っている。困っている事や不安な事に関しては、本人様の話を傾聴し、受容する事で安心して頂く事ができるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族からこれまでの生活歴や家庭での状態、思いや希望等を伺い、職員間で十分に検討し、出来る限り思いや希望に沿ったサービス提供ができるよう心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は、まず本人様及びご家族の意向や要望を伺い、「今一番に求められるサービスは何なのか」を見極め、小規模多機能型居宅介護サービスの利用等も含めて対応するよう心掛けている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、入居者様一人ひとりの個性を引き出して支援している。買物の要望がある時は一緒に出掛けたり、入居者様の趣味を活かし、教えて頂いたり、支え合う関係が築かれている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月、手紙を請求書に同封し、入居者様の日々の状況、状態を伝えている。又、面会時にはご家族の不安、要望等を伺い、コミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が気持ち良く来苑して頂けるように笑顔での対応を心掛け、明るい雰囲気作りを努めている。又、地域小学校との交流や保育園慰問等の交流が続いている。	毎月の命日には住職にお参りいただいたり、本人が地域や知人、友人等、馴染みの人や場所との関係が継続できるように連絡を取り持ったり、一緒に出掛けるなどして支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しない為に座る位置に配慮し、楽しくお話しできるように職員が仲介している。又、入居者様同士声を掛け合い、お互い支え合っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族へ連絡し、本人様の経過を伺ったり、面会に行ったりする事で関係が途切れないよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や表情、動作等から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方は、ご家族との話の中から少しでも多くの情報を収集し、出来る限り本人様の意思に添えるように努めている。	日々の関わりの中で利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難になられても表情等から汲み取り、本人の思いを大切に受け止め、関係者で話し合い、本人がその人らしく暮らし続けられるように支援をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の作成やご家族からの情報を得て、生活歴や生活環境の把握に努めている。又、好きな時間に好きな番組を観たい方には、テレビを持って来て頂き、居室で自由にテレビを観て頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ラジオ体操や希望に応じて家事の手伝いをしている。又、雑巾縫いやおしぼり作り、読書等、一人ひとりが望まれる生活をして頂けるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族には日頃の関わりの中で思いや意向を伺い、サービスに反映させるよう努めている。又、カンファレンスで本人様にとって今、必要な事は何かを検討し、出来る限り本人様やご家族の意向を重視した介護計画の作成ができるよう心掛けている。	ケアマネジャーが日頃からご家族の意向を聞いたり、利用者の希望を聞くようにしている。会議では担当者が日頃の気づきや利用者の意向を反映した意見等を伝えて検討している。介護計画は3ヶ月に1度見直され、本人家族の同意した署名・押印がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や出来事、職員の対応とその結果等を個人記録に残し、職員間で共有する事により統一したケアを提供できるよう努めている。又、個人記録やケアプラン実行表を基に介護計画の見直しや評価を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医療処置を受けながら可能な限り苑での生活を送って頂けるよう支援している。又、本人様やご家族の要望に応じて通院時の送迎や買物支援等を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる歯科検診を取り入れ、今後治療が必要な入居者様に関しては訪問歯科を利用して頂いている。又、訪問マッサージや出張散髪等の地域資源を活用する事により、豊かな暮らしを過ごして頂けるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である松本医院の医師と相談し、本人様やご家族が希望され、納得の得られた医療機関への円滑な受診ができるよう支援している。かかりつけ医への受診時にはご家族へ苑での生活の情報提供や希望される場合には職員同伴での受診支援も行っている。	希望する医療機関のかかりつけ医への受診支援をしている。かかりつけ医への受診は日頃の状態がわかるように主治医に手紙を書いたり、場合によっては家族に同行している。受診結果の伝達も行い、家族との情報の共有もできている。急病など定期診察でない受診は、家族に連絡し職員が付き添うなどの支援を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や心身状態等の変化や疑問は看護師へ報告し、必要に応じて母体である松本医院、又は、かかりつけ医への受診や苑での処置も行っている。状態変化時の連絡体制もできており、円滑な支援ができています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行ったり、面会に伺う等して状態把握に努めている。又、退院時はご家族や病院と連絡を取り合い、速やかに受け入れ体制を整えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについてご家族や本人様の希望されるケアに望めるよう医師、管理者、ケアマネジャー、職員、看護師、ご家族との話し合いを行い、方針を共有し、日々をより良く過ごして頂けるよう援助している。又、ケアノートを作成し、本人様やご家族の心理の変化や医師、職員、看護師の対応を記録している。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を本人及び家族に説明をしている。又、利用者の状態に応じて医師が状況判断し、その都度、家族や医師、職員が話し合いながら方針を共有して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時は緊急連絡網での医師、職員間での連絡体制を行っている。消防署による救急手当てや蘇生術等の研修にも参加し、知識や技術の向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の少ない夜間を想定した避難訓練を年2回行っている。当事業所のみならず地域の公民館を一時避難場所として協力を得ており、避難訓練の際は地域の方にも案内している。今年は4名の参加があり、防御の様子を見学して頂いている。訓練後は消防署より講評もして頂き、次回の訓練に活かすようにしている。	年2回消防署に届けて夜間訓練を想定した避難訓練、避難通路の確認、消火器の使い方などを実施している。地域の協力が得られるように呼びかけを行い、地域住民の参加を得ている。	緊急時に必要品が不足すること等がないように非常食を含めた備品の定期的な点検をお願いしたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回のミーティングで入居者様一人ひとりに応じた関わり方と職員同士で話し合っている。親しみのある言葉（方言）と共に失礼な言葉掛けにならないよう注意している。	利用者の人格の尊重やプライバシーについては、日頃からミーティング等で注意を促し、職員同士で言葉遣いにも気をつけている。又、利用者の希望により同姓介助にするなど配慮されている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で入居者様と関わりを持ち、会話をすることによって本人様の訴えや考えを傾聴し、本人様の思いを尊重していくよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合った過ごし方をして頂いている。希望により、ホットバック、メドマ、訪問マッサージ等を利用されている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、歯磨き、整髪等の身だしなみは出来ない部分のみお手伝いをしている。美容は毎月1回の訪問により、希望者は髪のカットをして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	トレー拭きやお椀拭きを手伝って頂いている。又、美味しく食事をとって頂くようにカレーが嫌いな方には肉じゃがにして、麻婆豆腐が嫌いな方には肉豆腐にして提供している。又、誕生日には手作りケーキや頻人様が希望される食事を準備している。	家庭的な雰囲気の中、利用者は食事の準備、片づけなどできることを手伝っている。献立は、利用者の嗜好や要望を反映したものとなっている。職員は同じテーブルで食事を摂り、利用者の嗜好等を把握しながら、利用者が食事を楽しむことができるように支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1,500cc(食事別)の水分摂取を目標にし、水分チェック表を作成し、一ヶ月に一回の体重測定を行い、必要に応じて個別に栄養管理状態の管理をしている。ミキサー食の入居者様には栄養補給の為、料理にスキムミルクを入れたり、別に栄養調整食品を食べて頂いている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアと義歯洗浄を行っている。歯のない入居者様には、うがい、ガーゼを使用し、歯茎や舌の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人様に合わせた声掛けや援助を行っている。	排泄チェック表を活用して、紙パンツでなくトイレ排泄が自立できるように援助している。排泄誘導は他の利用者に聞こえないように声かけし、利用者のサインを見逃さないようにすぐに対応している。排泄用品が必要になったときは家族と相談して購入している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表での毎日の排泄、食事・水分摂取量等のチェックを行い、ラジオ体操や散歩等、身体を動かす機会を多く持てるよう心掛けている。又、食事には野菜、穀物、果物等の食物繊維が多く含まれる食品が取り入れられ、調理されている。必要時には医師へ相談し、緩下剤の処方、内服での便秘予防にも努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者様の希望に応じた入浴支援を行っている。入浴拒否の方にはタイミングを見計らって促している。体調不良により入浴できない場合は清拭や足浴を行い、気分転換を図っている。	利用者の希望に応じて毎日入浴ができる体制をとっている。一番風呂や長湯、湯加減など一人ひとりが楽しめるように支援を行ない、入浴を拒否される場合には無理強いをせず、入浴回数などを考慮し、時間帯や言葉かけ等の工夫により入浴を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活を崩さないようにテレビ鑑賞や入浴、読書、ベッド臥床等、本人様のペースで生活して頂けるよう支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方時に発行される薬剤情報により、各入居者様の薬の用法、用量や目的、副作用等の情報を知る事ができる。薬局より一包装された服薬に日付、氏名、服薬時等表記されており、薬箱への準備時、服薬介助時、服用後等の確認により、飲み忘れ、誤薬の予防に努め、確実な服薬支援で症状の変化を把握するよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な家事のお手伝いやレクリエーションの他に二ヶ月に一度講師を呼び、ピアノを楽しむ会をしたり、地域で活動されるブラスバンドや太鼓の演奏会等も楽しんで頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	郷土の自然や歴史に触れて頂く為、ドライブを兼ねて花見や神社、史料館の見学を行っている。又、4月の行事である恒例のバスハイクでは、今年はかんぼの宿を利用して頂き、ご家族も一緒にお食事やお風呂を楽しみ、希望に添うことができた。	買物やドライブ、季節毎に花見等の外出支援を行っている。利用者の希望に応じて散歩はほぼ毎日設けている。職員が近所の郵便局に行く時や他の利用者が買物や病院に行く時に一緒に乗車を希望する利用者もおり、柔軟に対応しながら日常的に外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様から買物を頼まれた時は買物へ行ったり、時には入居者様と一緒に近くのスーパーまで行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があった場合は電話を掛けたり、ご家族の方から本人様の健康状態や日常生活の様子を伺われる電話がある。又、友人や知人へ手紙を書かれるので、投函の手助けを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が季節感を感じられるようフロアにはカレンダーや行事の際に撮影した思い出の写真を掲示している。西側の窓は日が差すと眩しいので、和紙にて対応している。建物の構造では、二重ガラスの使用と高気密換気システムにより、温度、湿度、臭いのコントロールを行い、快適な室内環境となっている。	リビング、浴室、トイレ等、共用の空間はどれも清潔感があり、整理整頓されて臭いがない。日よけにロールカーテンやカフェカーテンが使い分けられて適度な明るさがある。リビングには行事風景などの写真があり、生花がさり気なく活けられている。畳敷きも取り入れられ、それぞれの利用者にとって気持ちよく過ごせる場となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファ、畳スペース、テーブル席があり、本人様が好みの場所で思い思いに過ごされるよう支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の好みの物、使い慣れた物を居室へ置いて頂いている。ご家族との写真、朝日苑で過ごされた写真、外出時に自宅から持ち帰られた季節の花、面会時にご家族が持って来られた花等を居室に飾っておられる。	居室には家族の写真、馴染みの身の回りのものが持ち込まれている。家具の位置やベットの向きを変えたりしてそれぞれ個性的な居室となっている。物品の配置、季節のもの入れ替え等は利用者や家族と相談して行っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すり、車椅子を活用し、入居者様の残存能力を活かした生活が送れるよう工夫している。ポータブルトイレは位置や向き、ベッドの高さを調整し、入居者様に合った対応に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、安全、尊厳の実行ができる為に職員全体の心に浸透する言葉で独自の実践キーワードを掲げ、毎朝、夜勤申し送り時に唱和を行い、常日頃においてキーワードに基づいたサービスができるように心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の小学校との夜回りに参加させて頂き、苑の行事の夏祭りはパンフレットを町便りに入れて頂いている。地元の自治会の年行事の草取りに参加し、地域の方々との交流を深めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献としては、日々の介護実践の在り方をご家族や地域の方々へ絶やすことなく発信し続ける為、ホームページの開設や新聞を発行している。ボランティアの受け入れや小、中学校との交流、又、今年は初めて大学からグループホームでの実習の要望があり、対応させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表者からは、入居者様の状態やサービスの実際を身近に肌で感じて頂き、その良い点、悪い点を率直に述べて頂いている。ホームページの作成には、社会福祉士と一年以上に渡って話し合いを行い、情報発信の内容を精査し、開設に至っている。区長や民生委員には、地域交流を円滑にする為、又、制度改正や地域の情報等に関しては町福祉課より協力を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事があれば市町村の担当者と連絡をとったり訪問したりしている。又、ケアマネジャー連絡会に出席し、情報収集を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体能力、認知度、更には心理的な問題行動等、その方の状況は様々である。お一人おひとりの一日の暮しを家庭で過ごしておられた時のように身体拘束をせず安全にお守りする為には、まずその人から目を離すことのない担当者を決めること、そこから現場に立つその他の職員が連携を取りながら見守っていくことを実践している。定期的なミーティングでリスクマネジメント委員会の検討や分析を参考に反省点を見い出して実践に生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的な入居者様への個別対応によって現状を把握し、毎朝夕の申し送りや毎月のミーティングで虐待に繋がるような言動については職員同士で注意し、未然に防ぐ為に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政主催の研修に参加し、今後必要とする方に支援できるようにパンフレットも常備している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を提示し、解りやすい言葉で一つひとつ丁寧に説明する事により理解を求め、納得された上で同意が得られるように気掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からは常日頃から意見や要望がないか尋ねるように努めている。又、意見や要望に関しては会議にて検討し、出来る限り運営に反映させる事ができるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による各棟ミーティングがあり、そこで出された意見や問題点を役職者会議によって討議し、議題や決定事項をまとめ、更にはホーム長参加のもと全体会議にてその内容をもとに話し合いを行っている。又、行事報告、各委員会からの報告、苑内勉強会等、一時間を有効に使うて隔々の声を拾い上げ全職員による情報の共有に努めている。この一連の流れを毎月欠かさず行うことによりマンネリ化しないリズムミカルな職場環境が生まれ、モチベーションの向上に繋げている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会計士、労務士のアドバイスを受けながら就業規則に則った健全な運営に努めている。例えば、勤務表の中に各自希望の研修や有休を届け出た職員を考慮した人員配置を行ったり、処遇改善交付金の活用し、水準を下回らない給与、ボーナスの支給を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用にあたっては、経験を最重要視している。新人社員に対しては、人は目を閉じて車道を歩くとどうなるかというブラインドテストをもとに運営者、管理者、現職員が連携をとって丁寧な指導をしていくよう努めている。職場を管理・ケアマネージャー・介護・看護・調理・防火防災という六つの業務に分け、それぞれの主任が統括する。その中に年間行事、地域交流、委員会活動、研修計画の担当者が関わることにより、それぞれの活動の場で全職員が生き生きと行動できる活性化した職場となっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は運営理念「ハーモニー」を作成し、その中で人権教育、啓発活動における介護の重要性や法令遵守等を述べ、勉強会や提示等により職員への周知徹底に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内では例年の勉強会に加え、介護労働安定センターより演者を招き、6月8月9月の三回講演会を行う予定である。又、一方、苑外研修を円滑に行う為の研修計画を作成し、年間を通して希望と勤務に応じた研修を全職員が受けることのできるシステムを確立している。受講者は一週間以内にレポートを書き、発表することになっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者、特に小規模多機能ホームを新設される事業者様よりの見学の依頼を受け、対応させて頂いた。当事業所からは今年二ヶ所の施設見学を行った。事前に施設の見学と質疑応答による交流会の依頼を行い、快く応じて頂いている。介護の難しさや楽しさ、知恵使いの話等、サービス向上の取り組みに活かしていきたいと思う。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ず本人様を訪ね、心身の状態や不安、要望等を伺い、情報収集を行っている。困っている事や不安な事に関しては、本人様の話を傾聴し、受容する事で安心して頂く事ができるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族からこれまでの生活歴や家庭での状態、思いや希望等を伺い、職員間で十分に検討し、出来る限り思いや希望に沿ったサービス提供ができるよう心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は、まず本人様及びご家族の意向や要望を伺い、「今一番に求められるサービスは何なのか」を見極め、小規模多機能型居宅介護サービスの利用等も含めて対応するよう心掛けている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は日々の生活の中でお互いに喜び、学びあって過ごされている。おやつ作りでは、こんな時にこんな風に使っていたと昔話をされたり、外に出て季節を共感し、四季折々の草花の名前や畑で育てている作物の収穫を互いに楽しく過ごせるような関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様がより一層楽しく過ごせるようご家族に色々な行事に参加して頂く為に声掛けし、又、請求書を送付する際に入居者様の担当職員が苑での様子を書いたお手紙を同封し、共に本人を支えていく関係に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	門徒のお寺の住職様より、月命日にお参りに来て頂いたり、友人、知人の方が面会に来られたり、手紙のやり取りでも交流が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの意向を知り、理解を深めながら孤立せず、又、入居者様同士良い関係が築けるように1枚のちぎり絵を皆様と共に貼りながら会話を楽しまれるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族へ連絡し、本人様の経過を伺ったり、面会に行ったりする事で関係が途切れないよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中で入居者様の思いや意向の把握に努めている。意思を表す事ができない入居者様については、ご家族から話を聞いたり、行動やしぐさを観察する等、入居者本位の生活の支援に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントについてはセンター方式を取り入れ、必要な情報を計画作成担当者のみでなく職員全員が収集し、課題解決に向け、情報をより多く取り入れている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様全員でラジオ体操、レクリエーションを行っている。本人の体調に応じて自由に過ごして頂いている。又、お盆拭きや洗濯物たたみをして頂いたり、個別レクリエーション、リハビリを行い、毎日楽しく過ごせるように支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族には日頃の関わりの中で思いや意向を伺い、サービスに反映させるよう努めている。又、カンファレンスで本人様にとって今、必要な事は何かを検討し、出来る限り本人様やご家族の意向を重視した介護計画の作成ができるよう心掛けている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や出来事、職員の対応とその結果等を個人記録に残し、職員間で共有する事により統一したケアを提供できるよう努めている。又、個人記録やケアプラン実行表を基に介護計画の見直しや評価を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医療処置を受けながら可能な限り苑での生活を送って頂けるよう支援している。又、本人様やご家族の要望に応じて通院時の送迎や買物支援等を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる歯科検診を取り入れ、今後治療が必要な入居者様に関しては訪問歯科を利用して頂いている。又、訪問マッサージや出張散髪等の地域資源を活用する事により、豊かな暮らしを過ごして頂けるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である松本医院の医師と相談し、本人様やご家族が希望され、納得の得られた医療機関への円滑な受診ができるよう支援している。かかりつけ医への受診時にはご家族へ苑での生活の情報提供や希望される場合には職員同伴での受診支援も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や心身状態等の変化や疑問は看護師へ報告し、必要に応じて母体である松本医院、又はかかりつけ医への受診や苑での処置も行っている。状態変化時の連絡体制もできており、円滑な支援ができています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行ったり、面会に伺う等して状態把握に努めている。又、退院時はご家族や病院と連絡を取り合い、速やかに受け入れ体制を整えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについてご家族や本人様の希望されるケアに望めるよう医師、管理者、ケアマネジャー、職員、看護師、ご家族との話し合いを行い、方針を共有し、日々をより良く過ごして頂けるよう援助している。又、ケアノートを作成し、本人様やご家族の心理の変化や医師、職員、看護師の対応を記録している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時は緊急連絡網での医師、職員間での連絡体制を行っている。消防署による救急手当てや蘇生術等の研修にも参加し、知識や技術の向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の少ない夜間を想定した避難訓練を年2回行っている。当事業所だけの災害時には地域の公民館を一時避難場所として協力を得ており、避難訓練の際は地域の方にも案内している。今年は4名の参加があり、防御の様子を見学して頂いている。訓練後は消防署より講評もして頂き、次回の訓練に活かすようにしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日入居者様の状態観察を欠かさず行い、朝、夕に申し送りをして、月1回のミーティングでは一人ひとりに応じた関わり方を検討し、声掛けを行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の要望や願いを聞き、一人ひとりの状況や状態に合わせ、出来る範囲で本人様に自己決定して頂くように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを守り、散歩、洗濯物干しやたたみ、トレー拭き、お椀拭き、おしぼり作り等、希望に沿って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の有料訪問理美容や毎日の身だしなみとして洗顔、整髪、髭剃り、洗顔されない方には洗顔タオルを利用して頂いている。又、季節や気候に合わせた衣類を本人様と一緒に選び、一日を過ごして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面厨房での調理時に献立等の対話をし、配膳時にはおしぼりたたみやテーブル拭き等を手伝って頂いている。職員と共に準備を進め、全員で会話しながら楽しく食事ができるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1,500cc（食事別）の水分摂取を目標にし、水分チェック表を作成し、一ヶ月に一回の体重測定を行い、必要に応じ個別に栄養管理状態の管理をしている。ミキサー食の入居者様には栄養補給の為、料理にスキムミルクを入れたり、別に栄養調整食品を食べて頂いて摂取して頂いている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや緑茶でのうがいの声掛け、義歯洗浄剤の使用等、個人の能力に応じて支援を行っている。又、希望される方には訪問歯科を利用して頂き、必要な処置やアドバイスを頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々の排泄パターンの把握に努めている。又、失禁を未然に防ぐ事ができるよう定期的に声掛けを行い、トイレで排泄して頂けるよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表での毎日の排泄、食事・水分摂取量等のチェックを行い、ラジオ体操や散歩等、身体を動かす機会を多く持てるよう心掛けている。又、食事には野菜、穀物、果物等の食物繊維が多く含まれる食品が取り入れられ、調理されている。必要時には医師へ相談し、緩下剤の処方、内服での便秘予防にも努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	長風呂が好きな方には時間に余裕を持って支援し、一番風呂が好きな方には一番風呂に入って頂いている。湯加減も好みの温度で入って頂く等、季節や気分による日々異なる要望を出来る限り傾聴しながら入浴を支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室、ソファ、畳スペース、渡り廊下等、個人の好まれる場所で過ごして頂いている。夜間テレビを観たい方には、ゆっくり観て頂き、不安や心配を訴えられる方には会話対応を行い、気分転換や不安の軽減に努め、安眠して頂けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方時に発行される薬剤情報により、各入居者様の薬の用法、用量や目的、副作用等の情報を知る事ができる。薬局より一包化された服薬に日付、氏名、服薬時等表記されており、薬箱への準備時、服薬介助時、服用後等の確認により、飲み忘れ、誤薬の予防に努め、確実な服薬支援で症状の変化を把握するよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の日常観察から洗濯物たたみや食後の後片付け等を手伝って頂いている。その都度、「ありがとう」や「助かります」等と感謝の気持ちを言葉で伝えている。又、好きなテレビ番組を観て頂いたり、柳川のさげもん見学やバスハイク等で季節感や気分転換の支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を考慮してドライブ、散歩等の外出を行っている。季節感を感じられるよう積極的に外出できるよう心掛けている。又、4月の行事としてご家族へ声掛けし、バスハイクを行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先で買物されたり、入居者様から買物を頼まれた時は、購入したレシートをお渡しし、代金を頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望がある時には職員が電話の取り次ぎを行い、話して頂いている。又、ご家族へハガキや年賀状等を出されている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるよう落ち着いた空間作りに配慮している。行事等で撮影した写真等をポスター風にして貼り、楽しんで頂いている。建物は二重ガラスを用い、高気密換気システムにより室内のコントロールを行い、居心地良く過ごされている。又、西側窓の射光の為、スクリーンを手作りして設置した。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の椅子やリビングのソファを自由に使用され、くつろがれたり、会話や職員の手伝い（洗濯物たたみ等）をされ、過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様とご家族と相談し、居室内の物品の配置をしている。本人様が居心地良く使いやすいように工夫している。例えば車椅子に座ったままでも手が届きやすいように工夫したり、弱視の方には本人の見えやすい赤色のテープを貼ったりしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使った起立訓練や体操を行い、残存機能の維持に努め、自立した生活が送れるように支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない